

様式2 令和4年度 小金井市立東小学校 自己評価・学校関係者評価(中間まとめ)					
学校教育目標 支え合い、学び合い、高め合いの精神を大切にし、小金井の地に育ちこれからの22世紀の世界に羽ばたく人間として、徳・知・体の調和のとれた人間性豊かな児童を育成する。 ○やさしい子 ◎考える子 ○元気な子					
目指す学校像(ビジョン)					
【目指す学校像】 「支え合い、学び合う東小」 ○家庭・地域とともに豊かな心を育てる学校 ○主体的に学び合い、確かな学力を身に付ける学校 ○自ら考え、自主的に行動する態度を育む学校					
【目指す児童像】 ○心豊かで思いやりのある子どもを育成する ○自分で考え行動できる子どもを育成する(本年度の重点) ○いつも健康で、明るく元気な子どもを育成する					
【目指す教師像】 ○使命感をもち、組織的に行動する教師 ○常に学び続け、自己の能力を向上させる教師 ○子供・保護者・地域等から信頼される教師					
前年度までの学校経営上の成果と課題					
校内研究授業では、子供たちに「選択・判断する力」を身に付けさせる指導法を共有し、児童の考えを深める授業実践を積み重ねることができた。ICTの活用では、一人1台のタブレット型パソコンを積極的に活用し、「まなびポケット」を使った協働的な学習に取り組むことができた。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善や、ICTの効果的な活用については、今年度も継続して取り組んでいく必要がある。					
	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第1回学校関係者評価
		努力目標	成果目標		
人権精神尊重の育成	アンケートやWEBQUを活用して実態をつかむとともに、誰もが大切にされる温かな人間関係を育成する指導を行う。	3	4	6月に全学級でアンケートとWEBQUを実施し、学級集団や児童個々の特性を把握した。また、学校が組織して対応できるように、学校全体で情報を共有した。2学期は、特に学校行事等を通して、学級だけでなく、学年全体で互いに認め合える人間関係を培い、児童が安心して過ごせるように取り組んでいく。	児童アンケートを実施しているので、悩みや不安を抱える児童に丁寧に対応してほしい。また、支援体制の検討や、継続的な児童の様子の観察等、学校が組織的かつ長期的に児童を見守り、安心して学校生活を送れるようにしてほしい。
	あいさつは、コミュニケーションスキルの第一歩であることを意識した指導を充実し、児童が自ら挨拶する習慣を身に付けさせる。	3		毎月、学年によるあいさつ運動を実施したことで、児童が自分から進んで挨拶をしよとする意欲が高まり、来校者や保護者への挨拶もできるようになってきた。今後も教職員が模範を示しながら、「3つのあ(挨拶・安全・後始末)」を意識した指導を継続し、規範意識を育てていく。	登下校の見守りをしている様子から、1学期の後半は元気よく挨拶できる児童が多かったが、2学期になってからは自分から挨拶をする児童がやや少なくなった。高学年の児童が下級生の手本となるように指導をし、教職員だけでなく、地域の大人にも挨拶ができる児童に育ててほしい。
力授向上の推進・学	「見通しをもって問題解決するための手立てを工夫すること」を意識した授業を日々実践する。	3	4	「予想・計画・実験・結果・考察・結論」のサイクルを意識した授業を繰り返すことにより、児童が見通しをもって学習できるようになってきた。身近な事柄に関連していることに気付いたり、根拠を明確にして発言したりする力を育てるために、意見交流の場面を意図的・積極的に設定する。	問題解決型の授業を行うことによって、見通しをもって主体的に学ぶ児童が増えているのは良いことである。これからの世の中では、タブレット型パソコン等を活用して自分から発信する能力も求められている。問題解決の過程で「発表すること」も取り入れ、児童が発信する力も付けてほしい。
	「対話的活動の質を高めること」を意識した授業を行う。	3	4	授業での対話の場面を計画的に設定することで、児童同士の対話がスムーズにできるようになってきた。今後は、対話をする意義や視点、ゴールを予め児童に説明し、活発な意見交流ができるように工夫する。また、対話の頻度を増やし、ホワイトボードやタブレット型パソコン等も効果的に活用して対話の質を高めていく。	学校公開の様子から、PTAが寄贈したホワイトボードをどの学年でも活用していることが分かった。活用の際は、教科等を限定するのではなく、学習内容に応じてホワイトボードとタブレット型パソコンを使い分けていた。対話の質を高め、児童が効果的に学習できるように今後も取り組んでほしい。
人材活用材の充実	学校だよりや学年だより、ホームページ等を活用して、学校の教育活動やお知らせ等を積極的に発信する。	3		昨年度より積極的に学校や学年の授業の様子をホームページで配信している。また、学校だよりや献立予定表をホームページに掲載したり、保護者にスクールメールで配信したりして、ペーパーレス化を進めている。今後より多くの保護者や地域の方に閲覧してもらうためには、ホームページの閲覧を推奨していく必要がある。	ペーパーレス化したことは、とても良かった。情報量を精査し、スマートフォンでも見やすい形式にするにとさらに良いと思う。移動教室では、現地の様子を随時更新していたので、児童の楽しそうな様子が伝わってきて保護者として安心した。今後は、積極的にホームページを更新し、情報を発信してほしい。
	地域学校協働本部の地域コーディネーターと連携し、地域人材や施設、ゲストティーチャーを活用した授業を推進する。	3	4	ゲストティーチャーや地域ボランティアの皆さんに、積極的に支援をしていただき、児童の活動が充実してきた。10月からは、「フォローアップ教室」で担任と地域未来塾による地域ボランティアが一緒になって指導に当たり、児童個々の課題に応じた学習支援を行う。	地域コーディネーターとして、今までの取り組みも大切にながら、新しい地域人材を探し、活動の幅を広げられるようにする。また、充実した学習支援が行えるように、参加してくださるボランティア一人一人がよりよい対応が行えるように連携し、学校の教育目標に沿った支援ができるようにしていく。
特色ある学校づくり	一人1台のタブレット型パソコンを効果的に活用した協働学習を実践する。	3	4	一日1回以上、授業でタブレット型パソコンの活用を継続したことで、自分の意見を表現したり、考えを比較したりする際のツールの一つとして活用できるようになった。今後は、教員のICT研修を充実させ、「プログラミング教育指導計画」を基に、様々な教科で系統立てた指導を行い、児童が協働学習ができるようにしていく。	タブレット型パソコンの活用として、書く力を育てることと適宜使い分けて授業を行うことはとても良いことである。また、「プログラミング教育指導計画」を基に、段階的な文字入力と操作能力の育成を図り、どの教科でも有効活用できるようにしてほしい。
	なわとび旬間やオリンピック・パラリンピアンとの交流、体力向上委員会が考案した実技指導を体育の授業で実践する。	3	3	体力テストの結果を踏まえ、各学級で体力向上に必要な運動を工夫しながら指導している。体育学習発表会では、表現運動だけでなく、短距離走も実施することによって、運動に対する意欲をさらに高めた。今後は、なわとび旬間の実施やオリンピック・パラリンピアンとの交流を通して、児童の運動意欲や体力をさらに高めていく。	コロナ禍や熱中症予防のため、外遊びが難しい時期があるので、児童の体力の低下を心配していた。体育の授業での取り組みや、なわとび旬間を通して、体を動かすことの楽しさを児童に伝えてほしい。オリンピック・パラリンピアンとの交流会は、とても良い機会なので今後も継続して実施してほしい。
	縦割り班活動や、ひまわり学級との定期的な交流、地域の方々との交流を行う。	3	4	縦割り班活動は、高学年を中心に遊びの内容を企画して実施した。場所や活動内容に制限がある中、異学年の児童と交流ができる時間となっている。ひまわり学級との交流では、全校朝会や集会、行事等で定期的に関わることで、よい交流ができていく。今後は、地域の方とも積極的に交流を行い、さらなる充実を図っていく。	縦割り班活動では、高学年の児童が中心となって、三密に配慮しながらも低学年が楽しめるような遊びを考えたということで、素晴らしいと感じた。今後は、高学年の児童が活躍できる場を確保し、自己肯定感を高めたい。ひまわり学級との交流会は、できる範囲で良いので、工夫して実施していただきたい。
	児童自身が自分のできる取り組みを考え、自主的・積極的に環境保全活動に取り組む態度を育成する。	3	4	各学年で「ハチドリプロジェクト」と科学学習を関連付けた活動をしている。また、児童会と各委員会が連携して「東小SDGs」を企画し、取り組みを始めた。節水や節電、ごみの分別など、学校全体でできる身近な活動を通して、児童一人一人が自分事として捉えられるよう指導し、実践できるようにしていく。	「東小SDGs」というオリジナルの活動が始まったということで、今後も持続できるように取り組んでほしい。そのために、委員会での活動をその時だけで終わらせるのではなく、廊下の掲示板を活用することで、児童が「東小SDGs」を身近に感じ、全校で取り組んでいることを実感できるようにしてほしい。